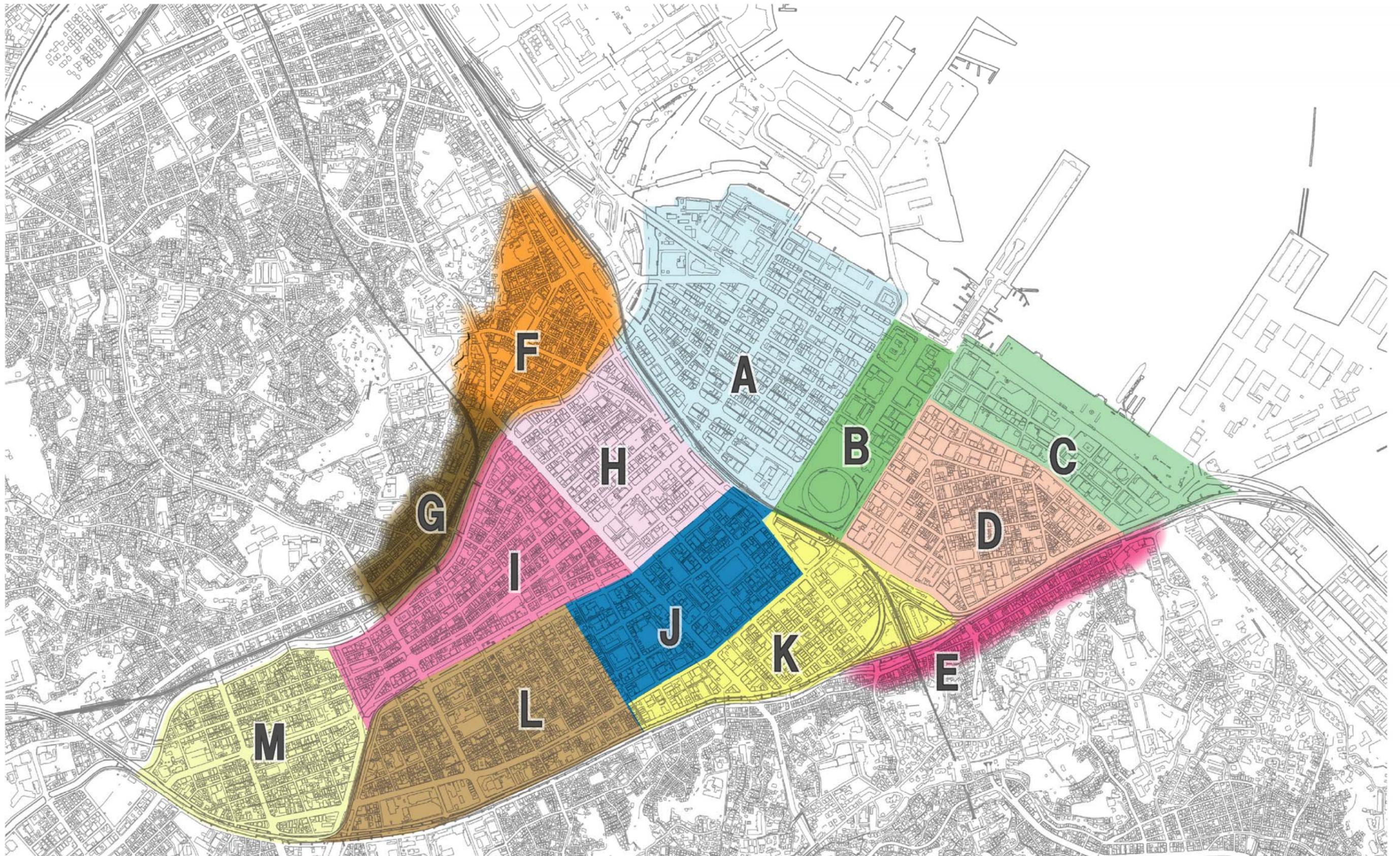


関内・関外地区活性化推進計画アクションプラン（平成23年3月）

1. エリア分類図	1
2. エリアごとのアクションプラン	
A：関内・馬車道地区	2
B：日本大通・横浜公園地区	4
C：山下公園通り・山下町地区	6
D：横浜中華街・山下町地区	8
E：元町・石川町地区	10
F：野毛周辺地区	12
G：初黄・日ノ出地区	14
H：伊勢佐木町1・2丁目・吉田町周辺地区	16
I：伊勢佐木町3～7丁目周辺地区	18
J：不老町周辺地区	20
K：寿・松影・吉浜町周辺地区	22
L：浦舟町・阪東橋周辺地区	24
M：お三の宮周辺地区	26
3. 複数のエリアで連携したアクションプラン	28
4. 優先的取組等	30

1. エリア分類図



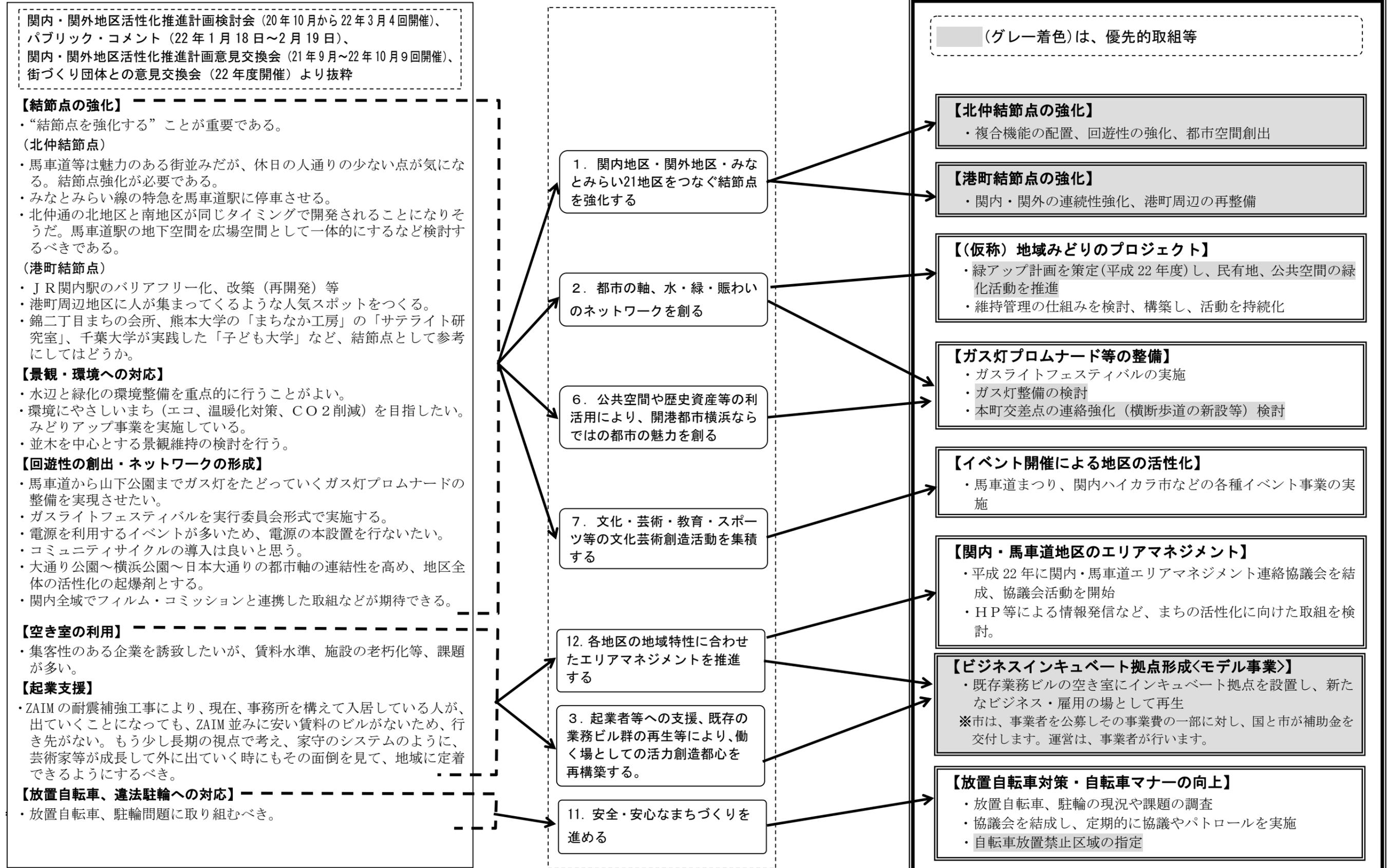
2.エリアごとのアクションプラン

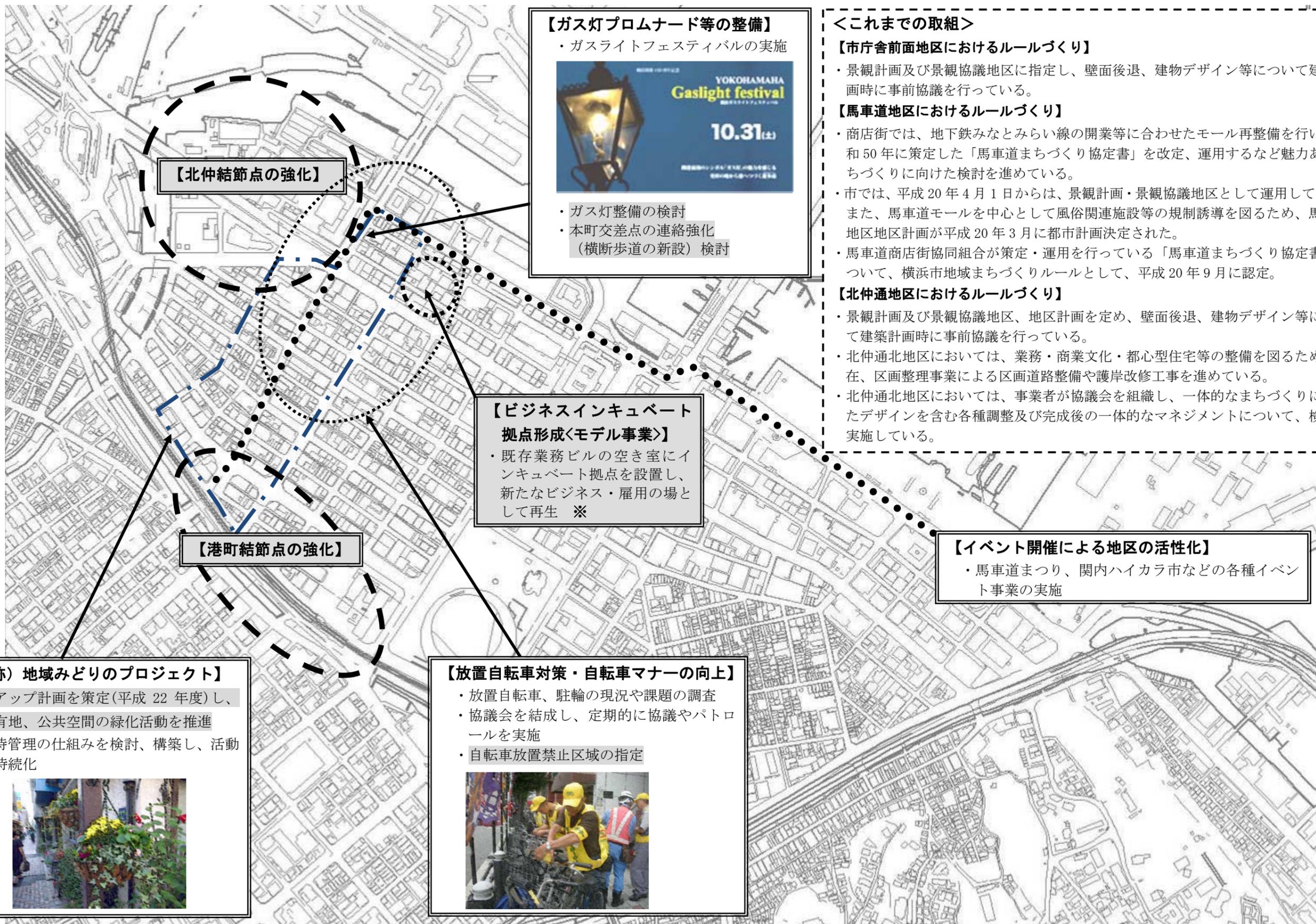
A：関内・馬車道地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

<12戦略との関連性>

<アクションプラン>





【ガス灯プロムナード等の整備】

・ガスライトフェスティバルの実施



- ・ガス灯整備の検討
- ・本町交差点の連絡強化
(横断歩道の新設) 検討

<これまでの取組>

【市庁舎前面地区におけるルールづくり】

・景観計画及び景観協議地区に指定し、壁面後退、建物デザイン等について建築計画時に事前協議を行っている。

【馬車道地区におけるルールづくり】

・商店街では、地下鉄みなとみらい線の開業等に合わせたモール再整備を行い、昭和50年に策定した「馬車道まちづくり協定書」を改定、運用するなど魅力あるまちづくりに向けた検討を進めている。

・市では、平成20年4月1日からは、景観計画・景観協議地区として運用している。また、馬車道モールを中心として風俗関連施設等の規制誘導を図るため、馬車道地区地区計画が平成20年3月に都市計画決定された。

・馬車道商店街協同組合が策定・運用を行っている「馬車道まちづくり協定書」について、横浜市地域まちづくりルールとして、平成20年9月に認定。

【北仲通地区におけるルールづくり】

・景観計画及び景観協議地区、地区計画を定め、壁面後退、建物デザイン等について建築計画時に事前協議を行っている。

・北仲通北地区においては、業務・商業文化・都心型住宅等の整備を図るため、現在、区画整理事業による区画道路整備や護岸改修工事を進めている。

・北仲通北地区においては、事業者が協議会を組織し、一体的なまちづくりに向けたデザインを含む各種調整及び完成後の一体的なマネジメントについて、検討を実施している。

【北仲結節点の強化】

【ビジネスインキュベーター拠点形成<モデル事業>】

- ・既存業務ビルの空き室にインキュベーター拠点を設置し、新たなビジネス・雇用の場として再生 ※

【港町結節点の強化】

- 【イベント開催による地区の活性化】**
- ・馬車道まつり、関内ハイカラ市などの各種イベント事業の実施

【(仮称) 地域みどりのプロジェクト】

- ・緑アップ計画を策定(平成22年度)し、民有地、公共空間の緑化活動を推進
- ・維持管理の仕組みを検討、構築し、活動を持続化



【放置自転車対策・自転車マナーの向上】

- ・放置自転車、駐輪の現況や課題の調査
- ・協議会を結成し、定期的に協議やパトロールを実施
- ・自転車放置禁止区域の指定



B：日本大通・横浜公園地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【回遊性の創出・ネットワークの形成】

- ・馬車道から山下公園までガス灯をたどっていくガス灯プロムナードの整備を実現させたい。
- ・電源を利用するイベントが多いため、電源の本設置を行いたい。
- ・ZAIMで行ったミストは効果があった。ミストの機器を道路に埋設して欲しい。
- ・コミュニティサイクルの導入は良いと思う。
- ・大通り公園～横浜公園～日本大通りの都市軸の連結性を高め、地区全体の活性化の起爆剤とする。
- ・日本大通からイルミネーションを継続する。仮設電源が撤去される予定である。
- ・関内全域でフィルム・コミッションと連携した取組などが期待できる。

【起業支援】

- ・ZAIMの耐震補強工事により、現在の事務所を構えて入居している人が、出ていくことになっても、ZAIM並みに安い賃料のビルがないため、行き先がない。もう少し長期の視点で考え、家守のシステムのように、芸術家等が成長して外に出ていく時にもその面倒を見て、地域に定着できるようにするべき。

<12戦略との関連性>

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る。

6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

10. 関内・関外地区の魅力を活かし、都心観光機能を強化する

7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する

12. 各地区の地域特性に合わせたエリアマネジメントを推進する

3. 起業者等への支援、既存の業務ビル群の再生等により、働く場としての活力創造都心を再構築する。

<アクションプラン>

(グレー着色)は、優先的取組

【ガス灯プロムナード】

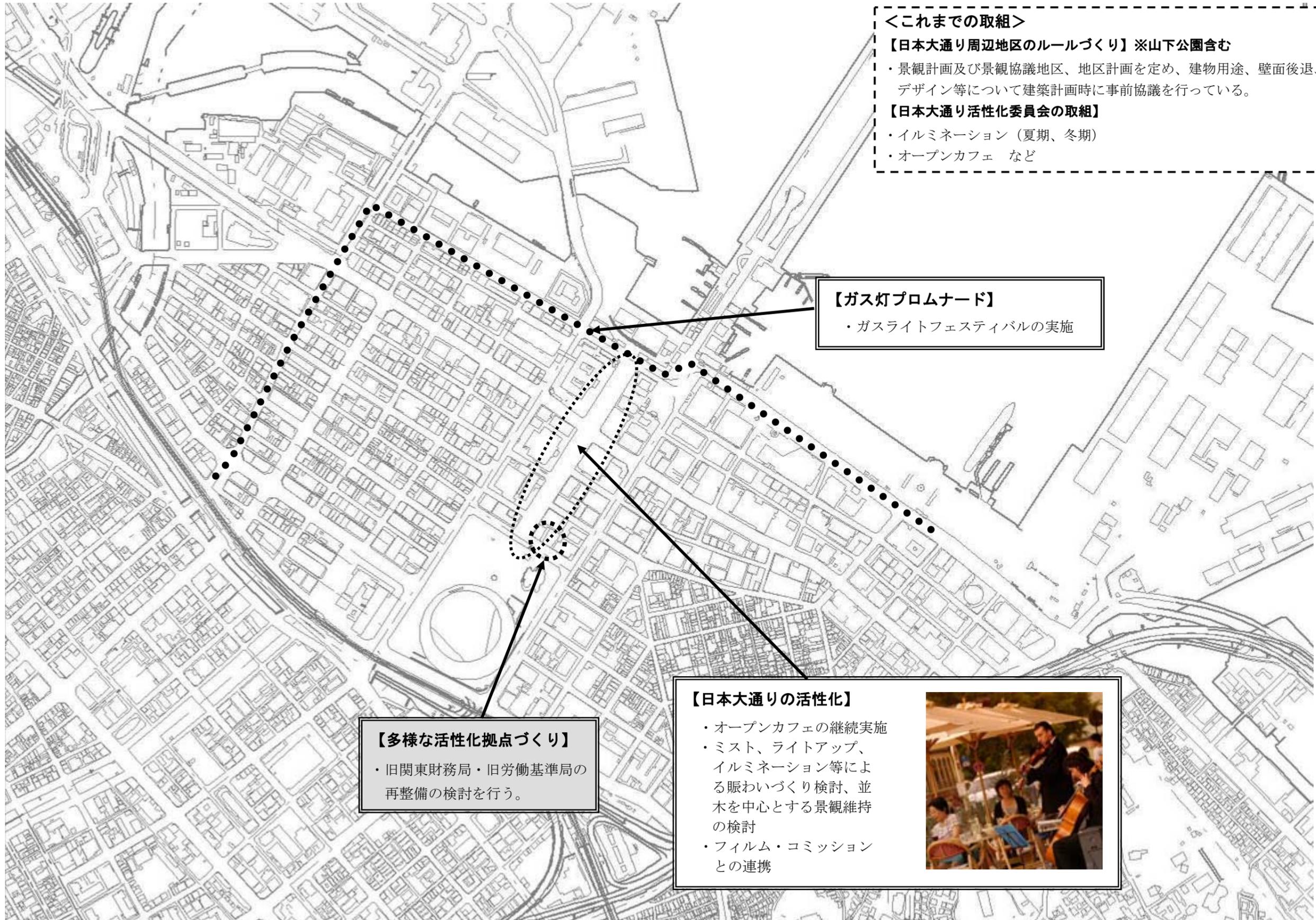
- ・ガスライトフェスティバルの実施

【日本大通りの活性化】

- ・オープンカフェの継続実施
- ・フィルム・コミッションとの連携
- ・ミスト、ライトアップ、イルミネーション等による賑わいづくり検討、並木を中心とする景観維持を検討

【多様な活性化拠点づくり】

- ・旧関東財務局・旧労働基準局の再整備の検討を行う。



<これまでの取組>

【日本大通り周辺地区のルールづくり】※山下公園含む

- ・景観計画及び景観協議地区、地区計画を定め、建物用途、壁面後退、建物デザイン等について建築計画時に事前協議を行っている。

【日本大通り活性化委員会の取組】

- ・イルミネーション（夏期、冬期）
- ・オープンカフェ など

【ガス灯プロムナード】

- ・ガスライトフェスティバルの実施

【多様な活性化拠点づくり】

- ・旧関東財務局・旧労働基準局の再整備の検討を行う。

【日本大通りの活性化】

- ・オープンカフェの継続実施
- ・ミスト、ライトアップ、イルミネーション等による賑わいづくり検討、並木を中心とする景観維持の検討
- ・フィルム・コミッションとの連携



C：山下公園通り・山下町地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、
パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、
関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、
街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【回遊性の創出】

- ・ 馬車道から山下公園までガス灯をたどっていくガスライトフェスティバルを実施する。
- ・ 全国から観光に訪れる街を目指すべき。日本で最初に横浜で灯された『瓦斯燈』で雰囲気を出し、歩道の舗装に煉瓦や石畳を使い、ガードレールも鋳鉄のデザイン性の高い仕様で整備して欲しい。

【文化・芸術・歴史を活かした賑わいづくり】

- ・ 歴史文化を大事にして、横浜都心部の文化芸術・観光振興を重点的に進める必要がある。
- ・ 国内外から集客し、滞在してもらうために、横浜駅、MM地区と連携を図り、観光施策を行ったらどうか。

<12戦略との関連性>

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する

<アクションプラン>

（グレー着色）は、活性化に寄与する主な取組

【ガス灯プロムナード】

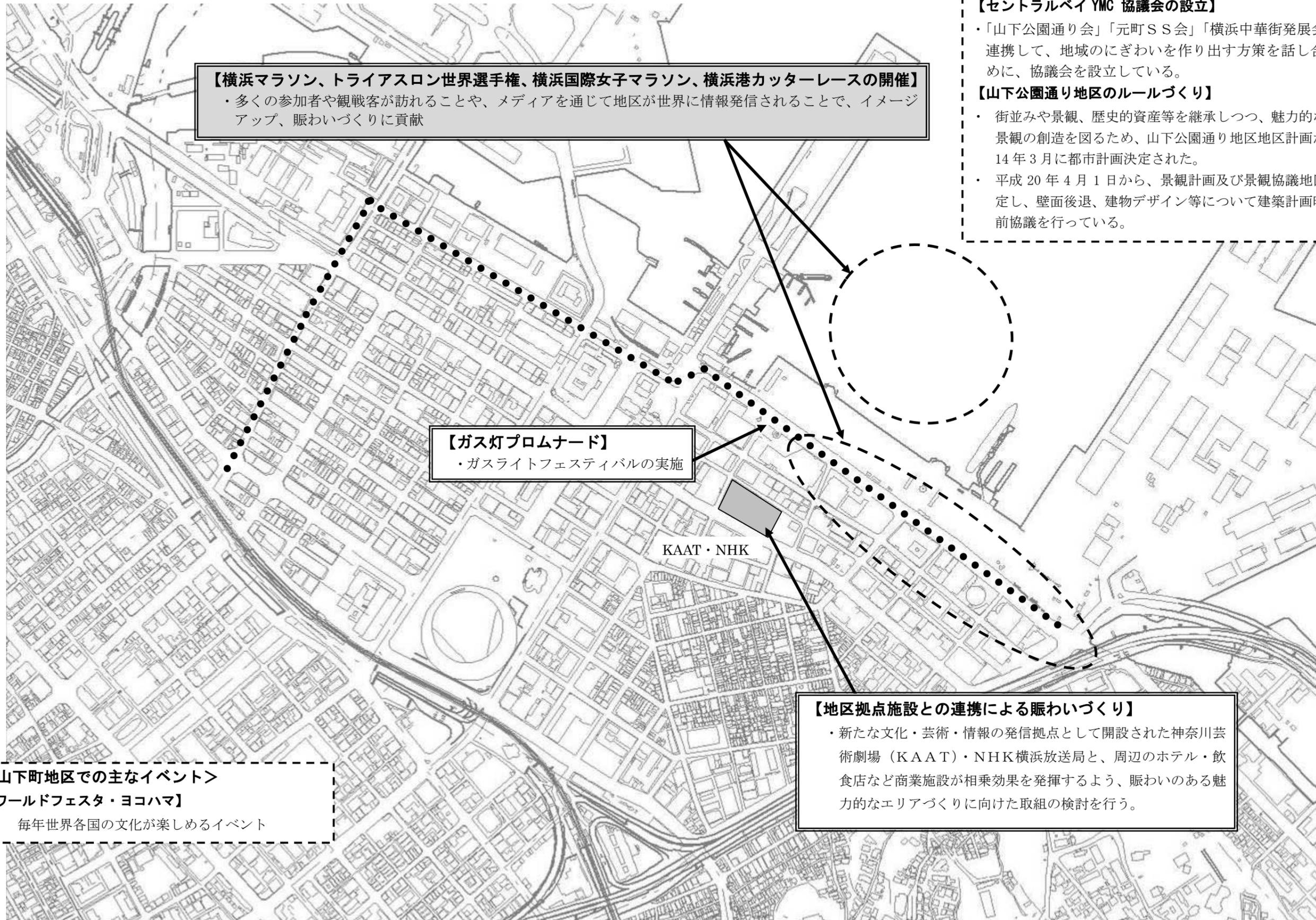
- ・ ガスライトフェスティバルの実施

【横浜マラソン、トライアスロン世界選手権、横浜国際女子マラソン、横浜港カッターレースの開催】

- ・ 多くの参加者や観戦客が訪れることや、メディアを通じて地区が世界に情報発信されることで、イメージアップ、賑わいづくりに貢献

【地区拠点施設との連携による賑わいづくり】

- ・ 新たな文化・芸術・情報の発信拠点として開設された神奈川芸術劇場（KAAT）・NHK横浜放送局と、周辺のホテル・飲食店など商業施設が相乗効果を発揮するよう、賑わいのある魅力的なエリアづくりに向けた取組の検討を行う。



【横浜マラソン、トライアスロン世界選手権、横浜国際女子マラソン、横浜港カッターレースの開催】
 ・多くの参加者や観戦客が訪れることや、メディアを通じて地区が世界に情報発信されることで、イメージアップ、賑わいづくりに貢献

【ガス灯プロムナード】
 ・ガスライトフェスティバルの実施

【地区拠点施設との連携による賑わいづくり】
 ・新たな文化・芸術・情報の発信拠点として開設された神奈川芸術劇場（KAAT）・NHK横浜放送局と、周辺のホテル・飲食店など商業施設が相乗効果を発揮するよう、賑わいのある魅力的なエリアづくりに向けた取組の検討を行う。

<これまでの取組>
【セントラルベイ YMC 協議会の設立】
 ・「山下公園通り会」「元町SS会」「横浜中華街発展会」が連携して、地域のにぎわいを作り出す方策を話し合うために、協議会を設立している。
【山下公園通り地区のルールづくり】
 ・街並みや景観、歴史的資産等を継承しつつ、魅力的な都市景観の創造を図るため、山下公園通り地区地区計画が平成14年3月に都市計画決定された。
 ・平成20年4月1日から、景観計画及び景観協議地区に指定し、壁面後退、建物デザイン等について建築計画時に事前協議を行っている。

<山下町地区での主なイベント>
【ワールドフェスタ・ヨコハマ】
 ● 毎年世界各国の文化が楽しめるイベント

D：横浜中華街・山下町地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、
パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、
関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、
街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【イベント財源の有効活用】

・ イベントの実施に関しては、占用料など各種手数料について無料にしてほしい。イベントの実施財源を有効に使用したい。

【中華街ブランドの維持発展】

・ 中華街ブランドの向上を目指して、迷惑行為のない安心・安全なまちづくりを推進したい。

【景観的魅力的向上】

・ 関帝廟通りの電線地中化について検討を進めたい。
・ ゴミの問題については、中華街だけではなく、住んでいる日本人の問題でもある。情報交換をしながら取り組む必要がある。
・ 交通の妨げにもなる放置自転車のない街づくりを推進したい。
・ 元町・中華街駅の出入口をバリアフリー化してほしい。

<12戦略との関連性>

10. 関内・関外地区の魅力を活かし、都心観光機能を強化する

4. 地域のブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る

11. 安全・安心なまちづくりを進める

6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

<アクションプラン>

【イベント継続】

- ・ イベント実施時の行政との連携策（助成制度の活用や行政と連携したPR方法、道路内の広告設置についての規制緩和など）をつくる。
- ・ 中華街ブランドを活かして、地域の活動資金を生み出す仕組みをつくる（広告収入など）
- ・ 都心部での集客イベント時の、警察や行政との連携強化を図る。

【中華街のブランド維持】

- ・ 良心的な栗売り店舗を推奨するシステムをつくることで、来街者に価値ある情報を提供し、中華街の食のブランドを向上させる。
- ・ 警察や行政との連携を強化し、路上販売などの迷惑行為排除に向けた共同パトロールを行う。

【公共空間の魅力アップ】

- ・ 観光地としての魅力ある景観を育てるよう、ゴミの収集時間や放置自転車の防止方法等について、行政との連携策をつくる。
- ・ 関帝廟通りの電線地中化について検討する。
- ・ 元町・中華街駅のバリアフリー化について検討する。

<これまでの取組>

【中華街地区のルールづくり】

- ・安全で快適な商業居住地域として更なる発展をさせていくための、居住者と事業者が協働による活力ある街づくりを継続するために、「中華街街づくり協定」を運用している。
- ・市では、平成20年4月1日から、景観計画及び景観協議地区に指定し、壁面後退、建物デザイン等について建築計画時に事前協議を行っている。

【セントラルベイ YMC 協議会の設立】

- ・「山下公園通り会」「元町SS会」「横浜中華街発展会」が連携して、地域のにぎわいを作り出す方策を話し合うために、協議会を設立している。

【イベント継続】

- ・イベント実施時の行政との連携策(助成制度の活用や行政と連携したPR方法、道路内の広告設置についての規制緩和など)をつくる。
- ・中華街ブランドを活かして、地域の活動資金を生み出す仕組みをつくる(広告収入など)
- ・都心部での集客イベント時の、警察や行政との連携強化を図る。

【中華街のブランド維持】

- ・良心的な栗売り店舗を推奨するシステムをつくることで、来街者に価値ある情報を提供し、中華街の食のブランドを向上させる。
- ・警察や行政との連携を強化し、路上販売などの迷惑行為排除に向けた共同パトロールを行う。

【公共空間の魅力アップ】

- ・観光地としての魅力ある景観を保てるよう、ゴミの収集時間や放置自転車の防止方法等について、行政との連携策をつくる。
- ・関帝廟通りの電線地中化について検討する。
- ・元町・中華街駅のバリアフリー化について検討する。

横浜中華街街づくり協定エリア

<中華街地区での主なイベント>

【春節】

- 旧暦のお正月をお祝いし、中国獅子や龍が舞う華やかなイベント

E：元町・石川町地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、
パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、
関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、
街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【交通・駐車場への対応】

- ・駐車場問題は、周辺地区を含めた交通の流れをどうするかに踏み込まなければならない。
- ・堀川の沿道の地下に、銀座のように駐車場を整備することを提案してはどうか。
- ・元町・中華街駅では、いつもタクシーが渋滞を引き起こし、課題である。
- ・元町通りの路上駐車場の時間が、午前8時から午後8時までであるが、この路上駐車場を、24時間駐車場にできないか。

【拠点整備もしくは水辺空間の活用】

- ・日ノ出町のように、川の駅を多く作り、川を利用した街の活性化を図る。
- ・石川町・元町は、昔から川と関係を持ったまちである。シーバスの運行や親水公園をつくることは、まちの景観を決めていく要素になると思うのでしっかりやって頂きたい。

【景観への対応】

- ・河岸通りに愛称を付けて、看板を設置する。

<12戦略との関連性>

4. 地域のブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を作る

<アクションプラン>

【来街者用駐車場整備の検討】

- ・商店街へのアクセス性の強化を図るために、交通体系や来街者用駐車場整備を検討

【来街者用駐輪場の検討】

- ・商店街へのアクセス性の強化を図るために、来街者用駐輪場整備を検討

【元町・中華街駅前のタクシープール等の検討】

- ・慢性的なタクシー及び交通渋滞の解消に向けて、元町・中華街駅前のタクシープール等を検討

【石川商店街の環境整備】

- ・歩行者環境改善のためのバリアフリー整備等や商店街ルールの検討

【石川町駅元町口のバリアフリー化】

- ・元町口のバリアフリー化の早期実現に向けて、JR東日本に引き続き働きかける。

【水辺空間の活用】

- ・川の駅整備など、水辺空間を利用した街の活性化を検討

【河岸通りの景観整備】

- ・河岸通りに愛称を付けることや、看板設置を検討

＜これまでの取組＞

【元町地区におけるルールづくり】

・「元町町づくり協定」「元町通り街づくり協定」「元町仲通り街づくり協定」のそれぞれの街のルールについて、屋外広告物などの制限を中心に、現況に即した制限に改定するため、見直し検討会やアンケート調査を行い、平成21年9月に新たなルールを策定した。

【石川町地区におけるルールづくり】

・街づくり協議地区に指定し、敷地の共同化、壁面後退による歩行者空間の確保、建物用途、建物のデザイン等について、建築計画時に事前協議を行っている。(→石川町地区街づくり協議指針)
・平成19年度からは、JR石川町駅元町口を中心とした区域において、横浜観光の玄関口としてふさわしく、歩きやすいまちづくりを進めるために地元の方々と検討している。

【元町SS会の共同配送システム】

・近年では、環境に配慮した『共同配送システム』を実施している。加盟店や配送会社からの配送物(低公害自動車を利用して)をセンターで一括集荷・配送するもの。この取組みにより、排出ガスを削減するとともに、通りの景観を向上させている。

【元町SS会の授乳・オムツ換え専用車】

・平成21年には、授乳やオムツを換えるスペースや設備を車内に設置した専用車を購入し、休日の元町通りに展開している。

【元町クラフトマンシップ・ストリートの設立】

・平成16年に設立。元町仲通り・代官坂通り・水屋敷通り・汐汲坂通りに関する街路整備事業を行った。インターナショナル・フードフェアを毎年、行っている。

【セントラルベイYMC協議会の設立】

・「山下公園通り会」「元町SS会」「横浜中華街発展会」が連携して、地域のにぎわいを作り出す方策を話し合うために、協議会を設立している。

【来街者用駐車場整備の検討】

・商店街へのアクセス性の強化を図るために、交通体系や来街者用駐車場整備を検討

【水辺空間の活用】

・川の駅整備など、水辺空間を利用した街の活性化を検討

【元町・中華街駅前のタクシープール等の検討】

・慢性的なタクシー及び交通渋滞の解消に向けて、元町・中華街駅前のタクシープール等を検討

【河岸通りの景観整備】

・河岸通りに愛称を付けることや、看板設置を検討

【来街者用駐輪場の検討】

・商店街へのアクセス性の強化を図るために、来街者用駐輪場整備を検討

【石川町駅元町口のバリアフリー化】

・元町口のバリアフリー化の早期実現に向けて、JR東日本に引き続き働きかける。

【石川商店街の環境整備】

・歩行者環境改善のためのバリアフリー整備等や商店街ルールの検討

F：野毛周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【結節点の強化】

- 野毛地区として、結節点の強化により、どれだけ良い影響があるのかと考えている。自分達のエリアだけで考えていると、考え方が小さくなるので、広い見方での取組が参考になる。
- ※みなとみらい21地区と周辺地区との一体化を図る桜木町駅前地下通路「野毛ちかみち」の供用
- ※野毛町3丁目北地区市街地再開発事業により、大衆芸能の拠点として芸能センター「横浜にぎわい座」が開館
- ※歩行者ネットワークの整備

【活性化の情報発信、観光との連携】

- 野毛地区は、最近色々なことをやっていて、（他の地区が）野毛地区の取組を学ぶこともあると思う。
- 野毛では、春・秋の大道芸で、2日間でも多くの人を集めており、また特色ある飲食店が力を持っている。それらをあわせてどのように人を集めていくかを検討していくことが必要である。
- 野毛地区には、「野毛」だからやりたいというような専門家が係わっている。関内・関外地区の活性化の効果を期待するだけでなく、（野毛地区が関内・関外地区の活性化を引っ張っていくような）活動が活発に行われている。
- 野毛の大道芸は2日間だけで何十万という人の動員があるが、その人たちが、次に、どのようにしたら野毛に来てくれるか、ということが考えられていない。また、観光資源として野毛大道芸は第1号の国の認定を受けたが、生かされていない。そこで、観光や地域の活性化にどのように結びつくのか、ということ野毛では今考えている。

【新しい力を活かした活性化】

- 野毛は、資金力は蓄えているが、いままでは大道芸などで、一過性のものに使ってきた。最近若い人を集めて、まちの将来像の検討などについて考えている。また、野毛では、にぎわい座、野毛 Hana*Hana などをつくり、アーティストなど若い人が入ってきている。そのような人たちの力を借りながらやっていきたい。

<12戦略との関連性>

- 1. 関内地区・関外地区・みなとみらい21地区をつなぐ結節点を強化する
- 2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る
- 6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る
- 10. 関内・関外地区の魅力を活かし、都心観光機能を強化する
- 7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する
- 4. 地域のブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る
- 3. 起業者等への支援、既存の業務ビル群の再生等により、働く場としての活力創造都心を再構築する
- 12. 各地区の地域特性に合わせたエリアマネジメントを推進する

<アクションプラン>

（グレー着色）は、優先的取組

【拠点を結ぶ回遊性の創出】

- みなとみらい21地区、北仲結節点、桜木町駅と地区内の各種拠点とを結ぶ回遊性の創出

【野毛の地区や活動の更なる情報発信】

- 野毛地区の地域資源の情報発信（ホームページ、案内図、案内マップ等）
- 文化芸術活動（にぎわい座、野毛 Hana*Hana など）の情報発信
- 周辺地区とのイベント等での連携（フィルムコミッションなど）

【野毛の賑わい魅力づくり】

- 大道芸等を活用した街のPR
- 周辺施設（野毛山動物園や文化施設、寺院）と連携した魅力づくり
- 空き店舗等を活用した賑わいづくり

<これまでの取組①>

【野毛地区街づくり協議指針】

● 開港以来、庶民的・大衆的な町として市民に親しまれてきた野毛地区は、みなとみらい21地区に隣接し、みなとみらい21地区との連携と一体化という視点に立った街づくりを進めるとともに、野毛らしさを生かした街づくりが期待されている。当地区では、再開発事業を始めとした共同化の促進、商業施設等の誘導、歩行者空間の確保などを図るため、以下のような建築計画の指導を行っている。

- ・共同建築の推進
- ・壁面後退
- ・建物用途
- ・建物のデザイン

<これまでの取組②>

【野毛大道芸】

● 戦後「闇市」としてゴッタ返し、桜木町駅が国鉄の終点であったころまで活気に溢れる飲食店・商店街であった野毛町にあって、線路の延伸、近郊の開発、発展などにより、地盤沈下に悩んでいた街の人々は街興しのため露天画廊・大道芸を出し物にした横浜野毛祭を企画した。野毛祭は、観客動員数3000人を記録し、中でも人気のあった大道芸をメインにした祭りを昭和61年春からスタートさせ、現在は年に2回、野毛大道芸を開催している。



【拠点をつなぐ回遊性の創出】

- ・みなとみらい21地区、北仲結節点、桜木町駅と地区内の各種拠点をつなぐ回遊性の創出。

【野毛の地区や活動の更なる情報発信】

- ・野毛地区の地域資源の情報発信（ホームページ、案内図、案内マップ等）
- ・文化芸術活動（にぎわい座、野毛Hana＊Hanaなど）の情報発信
- ・周辺地区とのイベント等での連携（フィルムコミッションなど）

【野毛の賑わい魅力づくり】

- ・大道芸等を活用した街のPR
- ・周辺施設（野毛山動物園や文化施設、寺院）との連携した魅力づくり
- ・空き店舗等を活用した賑わいづくり

G：初黄・日ノ出地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【新たな拠点形成】

・関内・関外は回遊性が問題である。羽田空港の国際化に伴い、日ノ出町駅を起点に回遊性が考えられる。みなとみらい21地区よりも、リーズナブルな宿泊やお店などを作ることで、拠点になるのではないかと。

初黄・日ノ出地区のエリアマネジメント調査より

【まちのルールづくりのための基本的考え方】

- 1 まちの回遊性を高める
 - ・歩行者空間のネットワークの密度を高め、大岡川沿い、京急高架下、平戸桜木線の間を歩き来できる空間を増やす。
 - ・歩行者空間を豊かにする（幅員を広げる、広場をつくる）。
- 2 まちのにぎわいを連続させ、特徴のある街並みをつくる
 - ・歩行者空間沿いには、物販、飲食などの店を連続させ、にぎわいをつくりだす。
 - ・問屋街の伝統を受けた特徴のある店を大切にするとともに、製造販売の店、アーティストのスタジオやアトリエ等を誘導し、特徴のある街並みをつくる。
- 3 明るく見通しの良い、安全で安心な街並みをつくる
 - ・店の中や路地も見通しがきくまちをつくることで、安全・安心な環境をつくる。
 - ・夜も安心して歩ける適度な明るさのあるまちにする。
 - ・ごみがなく、よく管理された清潔なまちを維持することで、犯罪の起こらないまちをつくる。
 - ・地域全体のバリアフリー化をすすめ、誰でも安心して歩けるまちにする。
- 4 魅力的な景観をつくる
 - ・小規模店舗の日除け型看板にかわるファサードのルールをつくる。
 - ・まちのテーマカラーを決めて、建物や工作物に取り入れる。
 - ・アートやデザインを街並みに取り入れる。
 - ・街並みを花と緑で彩る。
- 5 お互いに交流し、マナーを守る暮らしやすいまちをつくる
 - ・様々な住民が、お互いに情報交換や交流する機会をつくる。
 - ・外国籍の人も、アーティストも、若い学生も、多様な人を受け入れ、お互いの文化を尊重する多文化共生のまちをつくる。
 - ・ごみ出し、犬の散歩、自転車通行などの生活のマナーを周知し、お互いに住みやすいまちをつくる。
- 6 環境を大切にすまちをつくる
 - ・太陽光発電等、自然エネルギーシステムを積極的に取り入れる環境モデル地区をめざす。
 - ・建物や敷地の緑化を積極的に行う。
- 7 大岡川等の自然や歴史を大切にする
 - ・大岡川、桜並木が見える場所を増やし、大岡川沿いに、憩いの場をつくる。
 - ・大岡川の水辺を活用し、水辺に近づける場をつくる。
 - ・大田陣屋、赤門通り、子の神社、湧水などの歴史を生かす。

<12戦略との関連性>

3. 起業者等への支援、既存の業務ビル群の再生等により、働く場としての活力創造都心を再構築する
1. 関内地区・関外地区・みなとみらい21地区をつなぐ結節点を強化する
2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る
7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する
11. 安全・安心なまちづくりを進める
8. 人と環境にやさしい便利な交通・移動環境を創る
4. 地域のブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る
5. 関内・関外地区ならではの居住スタイルを創出する
11. 安全・安心なまちづくりを進める
9. 自然を活かし環境負荷の少ない都心を創る
2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る
6. 公共空間や歴史資産等の活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

<アクションプラン>

【高架下、借り上げ店舗等の有効活用】

- ・アートをテーマに高架下、借り上げ店舗等にスタジオやアトリエの誘導
- ・防犯まちづくりなどの活動拠点を中心とした安心・安全まちづくりの実施

【拠点性と回遊性の創出】

- ・日ノ出町駅前A地区市街地再開発事業区域を玄関口とした拠点整備、賑わいのある駅前空間の創出
- ・大岡川の活用、にぎわい形成

【地区のルールづくり】

- ・地区の望ましい全体像の作成、共有化
- ・まちづくりルール等の策定による地区の環境浄化
- ・地区で活動する様々な団体間のコミュニティの場の形成

【アートによるまちづくりの推進】

- ・アーティストと地域住民との日常的な交流
- ・アートによる魅力的な空間作り
- ・黄金町バザールの実施

＜これまでの取組①＞

【地域・警察・行政が連携した

初黄・日ノ出地区の環境浄化活動】

- ・以前の違法店舗が立ち並ぶまちに二度と戻らないよう、地域、警察、行政が一体となって環境浄化に取組、地域再生に向け様々な活動を実施。

＜これまでの取組②＞

【初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会「Kogane-X」】

- ・初黄・日ノ出町地域防犯拠点を整え、防犯パトロール等を行い、安全、安心のまちづくりを進める。
- ・地区全体のまちづくり検討
- ・市大と協働し、「安全・安心まちづくり拠点 (kogane-xLab)」を開設。地域の交流カフェの運営。
- ・大岡川の環境整備や広報、地域のイベント活動の実施。

＜これまでの取組③＞

【NPO黄金町エリアマネジメントセンター】

- ・高架下のスタジオ施設、横浜市の借り上げ店舗の運営、改修、アートによるまちの再生の取組
- ・まちづくりの方向性を検討するためのまちの全体像や高架下活用、まちのルールづくりを検討

＜初黄・日ノ出地区での主なイベント＞

【黄金町バザール】

- アートの力で町の再生を目指すプロジェクト

＜これまでの取組④＞

【初黄・日ノ出町地区街づくり協議指針】

- ・当地区は、これまで、一部店舗の違法営業に伴う環境悪化が大きな問題となっていましたが、地元、警察、行政の連携により、誰もが安心して歩ける健全な街に変えるため、「子供たちが夢や希望を持てるような、明るく、住みやすいまちづくり」を目指し、街の賑わいの連続性（歩行者空間の確保）や、マンションの適正な居住水準（共同建築の推進や建物用途）の誘導に取り組んでいる。

【拠点性と回遊性の創出】

- ・日ノ出町駅前A地区市街地再開発事業区域を玄関口とした拠点整備、賑わいのある駅前空間の創出
- ・大岡川の活用、にぎわい形成

【高架下、借り上げ店舗等の有効活用】

- ・アートをテーマに高架下、借り上げ店舗等にスタジオやアトリエの誘導
- ・防犯まちづくりなどの活動拠点を中心とした安心・安全まちづくりの実施

【地区のルールづくり】

- ・地区の望ましい全体像の作成、共有化
- ・まちづくりルール等の策定による地区の環境浄化
- ・地区で活動する様々な団体間のコミュニティの場の形成

【アートによるまちづくりの推進】

- ・アーティストと地域住民との日常的な交流
- ・アートによる魅力的な空間作り
- ・黄金町バザールの実施

H：伊勢佐木町1・2丁目、吉田町周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【関内駅及び周辺のバリアフリー化】

- ・市庁舎の最寄り駅である、JR関内駅のバリアフリー化がなされていないことは問題である。
- ・マリナード地下街へのエスカレーター及びエレベーター設置を行い、バリアフリー化して欲しい。

【イセザキらしさ、回遊性の創出】

- ・伊勢佐木には歴史と伝統があるので、他地区と比較することよりも伊勢佐木は独自性やテーマを決めて活性化策を進めていくことがよい。
- ・伊勢佐木町から港の方に、散歩道のように歩いていくような回遊性を重点的に見直すべき。

【建替え、魅力ある店舗づくり】

- ・（建替支援について）早期に補助制度など支援を具体化してほしい。1・2丁目においても「空き室の問題」が顕在化してきた。例えば、その「空き室」に対し、①街（伊勢佐木町振興組合）が買い取る。②市が空き室を利用し「起業家支援モデル」としてきっかけを作る。など

【まちづくりのルールの周知促進】

- ・昨今、日本のルールを守らない外国人が増えてきている。今後、伊勢佐木町なども外国人が増え問題となるのではないか。
- ・防犯、ゴミ問題などソフト面は、まちが十分に取り組んでいる。ハード面は、まちで行うには限界がある。
- ・駐輪対策等も考えることが必要である。

【ソフト事業の展開】

- ・小さいものでよいので、何か目に見えるものを実現させたい。例えば、APECに合わせて外国人向けに「グルメマップ」を作成することなど、できることから実施できないか。

【吉田町での取組】

- ・アート&ジャズフェスタなど、吉田町は独自色を出して取組をしている。
- ・定期的なイベントとして、ビアガーデンは、評判がよく、継続的にやってほしいという声が上がっている。
- ・横浜市は、観光業で成り立っている街であると思うので、人を引っ張る装置として、戦災復興住宅は横浜市に一番多く残っているので、これらを活かしたまちづくりは、観光の柱にもつながっていくと思う。
- ・吉田町の戦災復興建築にあつては、リニューアルして、今あるものの個性を活かした街づくりが必要である。今の建物は人が交流しやすく、若者も多く集まっている。芸術家など、借りたいという人は多くいる。耐震と設備更新と、できればファサード統一などを行いたい。

<12戦略との関連性>

1. 関内地区・関外地区・みなとみらい21地区をつなぐ結節点を強化する

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

3. 起業者等への支援、既存の業務ビル群の再生等により、働く場としての活力創造都心を再構築する

4. 地域のブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る

11. 安全・安心なまちづくりを進める

10. 関内・関外地区の魅力を活かし、都心観光機能を強化する

<アクションプラン>

(グレー着色)は、優先的取組

【JR関内駅との連続性とバリアフリー化】

- ・JR関内駅との連続性を強化し、バリアフリー化等による、歩きやすい歩行空間を整備

【魅力ある店舗づくりと回遊性創出】

- ・イセザキモールに魅力ある店舗を誘致し、賑わいを創出
- ・歩行者に優しく、分かりやすく、魅力ある、通りづくりを推進し、回遊性を創出

【新しい客層、新住民への対応】

- ・周辺住民や新たな客層（外国人、観光客）への商業地としての接し方などの検討

【ソフト戦略の推進】

- ・まちづくりへの周知徹底、新たな客層に対応したソフト事業（マップ作成）を展開

【駐輪対策】

- ・イセザキモール及び周辺の違法駐輪への対策検討

【建物の耐震リニューアル】

- ・老朽化した建物の耐震リニューアルの検討

【ジャズ・アートによるまちづくりの推進】

- ・吉田町 Bars Street（バーズ・ストリート）の開催
- ・ヨコハマ吉田町通り アート&ジャズフェスティバルの開催

＜これまでの取組①＞

【伊勢佐木町1・2丁目地区地区計画】

- 横浜のメインストリートにふさわしい調和の取れた街並みを創造するため以下の制限を地区計画により定めています。
 - ・建物の用途等
 - ・建物の形態または意匠の制限

＜これまでの取組②＞

【伊勢佐木町1・2丁目地区商店街振興組合の取組】

- 以下のような取組を実施、推進しています。
 - ・ストリート・ファニチュア
 - ・イベント事業
 - ・環境浄化事業
 - ・地域・福祉活動
 - ・福利厚生事業 等

＜これまでの取組③＞

【伊勢佐木町地区まちづくり協議指針】

- イセザキモール（伊勢佐木町1～2丁目も含む）全体の魅力をさらに増して、都心商業地区の安全で快適なショッピングができる街づくりを進めるための以下の内容に関するルールを定めています。
 - ・共同建築の推進
 - ・建物の用途等
 - ・歩行者空間の確保（壁面後退）
 - ・閉店後の意匠
 - ・景観（建物のデザイン、外壁等の色、看板・広告）

＜伊勢佐木町1・2丁目、吉田町周辺地区での主なイベント＞

【吉田町 Bars Street（バース・ストリート）】

- 吉田町で開催されるオリジナルカクテルをスタンプラリー形式で楽しむことができるイベント

【ヨコハマ吉田町通り アート&ジャズフェスティバル】

- 吉田町通りと福富西公園で、アート作品の発表展示・即売、ジャズの生演奏を行うイベント。

【お三の宮秋祭り】

- お三の宮日枝神社での例大祭。市・縁日が開かれ、みこし・曳山・山車が出る。

【建物の耐震リニューアル】

- ・老朽化した建物の耐震リニューアルの検討

【ジャズ・アートによるまちづくりの推進】

- ・吉田町バース・ストリートの開催
- ・ヨコハマ吉田町通り アート&ジャズフェスティバルの開催

＜これまでの取組④＞

【吉田町地区街づくり協議指針】

- 伊勢佐木町と野毛に挟まれた、開港以来の伝統ある街としての地域の特性を生かしたまちづくりを進めるため、以下の内容に関するルールを定めています。
 - ・共同建築の促進
 - ・歩行者空間の確保（壁面後退）
 - ・駐車場等
 - ・建物の用途
 - ・建物のデザイン

【JR関内駅との連続性とバリアフリー化】

- ・JR関内駅との連続性を強化し、バリアフリー化等による、歩きやすい歩行空間の整備

【魅力ある店舗づくりと回遊性創出】

- ・イセザキモールに魅力ある店舗を誘致し、賑わいを創出
- ・歩行者に優しく、分かりやすく、魅力ある、通りづくりを推進し、回遊性を創出

【駐輪対策】

- ・イセザキモール及び周辺の違法駐輪への対策検討

【ソフト戦略の推進】

- ・まちづくりへの周知徹底、新たな客層に対応したソフト事業（マップ作成）を展開

【新しい客層、新住民への対応】

- ・周辺住民や新たな客層（外国人、観光客）への商業地としての接し方などの検討

I：伊勢佐木町3～7丁目周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【空き店舗活用、商店街の運営】

- ・3・4丁目には空き店舗がない。5～7丁目には空き店舗が見られる。空き店舗は、後継者の問題等から今後増えてくるかもしれない。
- ・3丁目の方からクロスストリートまでは空き店舗がない。空き店舗対策を考えるのであれば、空き店舗が見られる6丁目付近に拠点をつくと、新たな回遊性が生まれてくるのではないかと。
- ・空き店舗を埋めること。空き店舗に魅力ある店舗を誘致することが、回遊性を生み出し、そのことによって、治安の向上（環境浄化）につなげることができると思う。
- ・若くて個人で出店したいという人たちが増えてきている。そのような起業家を地域で育てていく（人材育成）仕組みが大切である。
- ・出店者へ、商店街運営に対する理解をお願いしたい。

【回遊性の創出】

- ・JR関内駅以外の駅からの「出発点」を考えることも必要である。
- ・元町では、同じ業種の店がたくさんあり、あちらの店に行ったらこちらの店に行くといった回遊性が生まれている。伊勢佐木はこれといったまとまった業種が見当たらない。そのためには、空き店舗に新しい業種を持って来るしかない。
- ・回遊性の出発点は「日ノ出町」か「関内」である。伊勢佐木は周りを駅で囲まれており、通り抜けされている「日ノ出町」と「黄金町」を起点・終点として、伊勢佐木町を『コ』の字で回る回遊性を考えることが大切である。
- ・大岡川と伊勢佐木とを結ぶ動線を整備して、川ーイセザキの回遊性を生み出すことが必要である。そのときは、川からイセザキにつながる「縦道」が重要となる。大岡川には、伊勢佐木につながる橋がたくさんあるが、有効に利用されていない。「縦道」整備を行う上で、空き店舗への対策ということは考えられると思う。
- ・大通り公園～横浜公園～日本大通りの都市軸は、絶好の位置にありながら、連結性がなく、賑わいがない。この利活用がうまくいけば、地区全体の活性化の起爆剤になると思う。

【通りの賑わい】

- ・伊勢佐木町であれば、「通り」に非常に価値があるので、ライブハウス出演希望者にストリートで演奏させたり、パフォーマンスさせたり、ストリートバスケットを誘致するなど考えてみては。
- ・伊勢佐木町モールや大通り公園で日本大通りのようにオープンカフェを実施する。
- ・クロスストリートという街の拠点をづくり、賑わい拠点づくりを行っている。これからも継続して、街の人・近隣の商店街や町内会の人から協力を得ながらやっていく。

<12戦略との関連性>

3. 起業者等への支援、既存の業務ビル群の再生等により、働く場としての活力創造都心を再構築する

11. 安全・安心なまちづくりを進める

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

4. 地域のブランド力を高め、路面型商店街の活性化を図る

6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する

<アクションプラン>

【イセザキモールを中心とした回遊性の創出】

- ・店先にちょっとした滞留できる場を設けるなどの複数の小さな拠点づくり
- ・日ノ出町、黄金町とイセザキモールとの回遊性創出を図るために、日ノ出町、黄金町とイセザキモールとを結ぶ軸において、空き店舗への力ある店舗の誘致などを検討
- ・日ノ出町、黄金町、伊勢佐木長者、阪東橋の各駅との回遊性を高めるために、分かりやすい歩行空間の整備を検討

【安全・安心な街づくりの推進と商店街運営】

- ・防犯パトロール、防犯カメラの設置等の安全・安心まちづくりの推進
- ・地権者等への街づくりルールの周知・徹底
- ・商店街運営に関する理解促進

【クロスストリートの継続的な運営と街づくりの拠点としての活用】

- ・クロスストリートでの各種アートイベントを継続的に実施していくための運営・管理・広報等のあり方を検討
- ・大学（大学生）と連携した街の活性化の検討を行う場の提供

【大通り公園の活用】

- ・大通り公園の活用の検討・提案

＜これまでの取組①＞

【伊勢佐木町3～7丁目地区まちづくり協定】

- 伊勢佐木町3～7丁目地区まちづくり憲章（「1. イセプラができるまちづくりを目指します」「2. 気軽に楽しめる賑わいのあるまちを再生します」「3. 『和』を大切に成長・発展します」）のもと、協同組合伊勢佐木町商店街の組合員、区域内の地権者及び建物所有者、区域内で商売・業務を行う者・行おうとする者、及び居住者がまちづくりに対する意思統一を図り、お互いが協力し合って調和の取れたまちづくりを進めるための以下の内容に関するルールを定めています。
 - ・建物の用途等
 - ・建物の共同化とバリアフリー化
 - ・建物のデザイン・色彩
 - ・看板・広告物、日除け類、商品等
 - ・駐車・駐輪対策
 - ・緑化の推進
 - ・客寄せ行為
 - ・ゴミ処理
 - ・まちづくり推進への協力
 - ・報告（空き地、空きビル、空き店舗等）

＜これまでの取組②＞

【伊勢佐木町地区まちづくり協議指針】

- イセザキモール（伊勢佐木町1～2丁目も含む）全体の魅力をさらに増して、都心商業地区の安全で快適なショッピングができる街づくりを進めるための以下の内容に関するルールを定めています。
 - ・共同建築の推進
 - ・建物の用途等
 - ・歩行者空間の確保（壁面後退）
 - ・閉店後の意匠
 - ・景観（建物のデザイン、外壁等の色、看板・広告）

【イセザキモールを中心とした回遊性の創出】

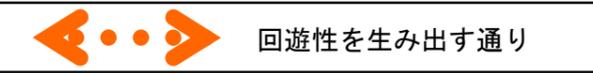
- ・店先にちょっとした滞留できる場を設けるなどの複数の小さな拠点づくり
- ・日ノ出町、黄金町とイセザキモールとの回遊性創出を図るために、日ノ出町、黄金町とイセザキモールとを結ぶ軸において、空き店舗への力ある店舗の誘致などを検討
- ・日ノ出町、黄金町、伊勢佐木長者、阪東橋の各駅との回遊性を高めるために、分かりやすい歩行空間の整備を検討

【安全・安心な街づくりの推進】

- ・防犯パトロール等の安全・安心まちづくりの推進
- ・地権者等への街づくりルールの周知・徹底

【クロスストリートの継続的な運営と街づくりの拠点としての活用】

- ・クロスストリートでの各種アートイベントを継続的に実施していくための運営・管理・広報等のあり方を検討
- ・大学（大学生）と連携した街の活性化の検討を行う場の提供



＜伊勢佐木町3～7丁目周辺地区での主なイベント＞

【イセザキモールラテンフェスタ】

- 観る！聴く！だけではなく、「みんなで踊ろう」をテーマに、来街者も気軽に楽しく参加できるコンサート

【お三の宮秋祭り】

- お三の宮日枝神社での例大祭。市・縁日が開かれ、みこし・曳山・山車が出る。

【大通り公園の活用】

- ・大通り公園の活用の検討・提案

J：不老町周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【回遊性の創出】

- ・根岸線で分断されている大通り公園と市庁舎の連結をもっと強める施策を検討すべき。
- ・大通り公園～横浜公園～日本大通りの都市軸は、絶好の位置にありながら、連結性がなく、賑わいが無い。この利活用がうまくいけば、地区全体の活性化の起爆剤になると思う。
- ・大通り公園のビヤガーデンはたくさんの方が来て賑わった。恒常化してもらいたい。

<12戦略との関連性>

7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する

11. 安全・安心なまちづくりを進める

12. 各地区の地域特性に合わせたエリアマネジメントを推進する

<アクションプラン>

（グレー着色）は、優先的取組

【多様な活性化拠点づくり】

○教育文化センターの改修の検討

- ・教育文化センターの耐震化・設備更新による、安全性や機能の強化など、ホールや市民ギャラリーの利便性の向上に向けた検討を進める。

○横浜総合高校等移転跡地の利用検討

- ・横浜総合高校を県立大岡高校跡地に移転整備、跡地に活性化拠点の形成を推進（活用方法は、老朽化や機能強化が課題である横浜文化体育館の将来的な再整備も含め、今後検討を進める。）

【町内会・自治会等のまちづくり】

- ・住みやすさの向上をめざしたまちづくり活動の検討・推進

【多様な活性化拠点づくり】

○教育文化センターの改修の検討

・教育文化センターの耐震化・設備更新による、安全性や機能の強化など、ホールや市民ギャラリーの利便性の向上に向けた検討を進める。

○横浜総合高校等移転跡地の利用検討

・横浜総合高校を県立大岡高校跡地に移転整備する。跡地に活性化拠点の形成を目指す。(活用方法は、老朽化や機能強化が課題である横浜文化体育館の将来的な再整備も含め、今後検討を進める。)

【町内会・自治会等のまちづくり】

・住みやすさの向上をめざしたまちづくり活動の検討・推進

<これまでの取組>

【大通り公園周辺地区街づくり協議地区】

●横浜市の緑の軸線としての「大通り公園」が、市民のレクリエーションや憩いの場として親しまれ、また非常時に防災上安全な避難経路として役立つためには、公園だけでなく、周辺の地区も一体的に開発される必要があります。また、快適な都市居住を営むために、商業・業務施設と住宅とのバランスの良い配置を促進する。「緑豊かな街づくり・快適な複合市街地の街づくり」を目標に、次のような建築計画の指導を行う。

K：寿・松影・吉浜町周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、
パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、
関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、
街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

<12戦略との関連性>

12. 各地区の地域特性に合わせた
エリアマネジメントを推進
する

<アクションプラン>

【町内会・自治会等のまちづくり】

・住みやすさの向上をめざしたまちづくり活動の検討・推進

<これまでの取組①>

【石川町地区街づくり協議地区】

●K地区の吉浜町の一部が、石川町地区街づくり協議地区となっている。石川町地区は、本市の都心部における拠点地区として、また、山下公園、中華街、山手など横浜を代表する観光地への最寄り駅としての地域の特性を生かした街づくりを進めていくため、共同化の促進、元町と一体となった壁面後退による歩行者空間の確保、壁面のデザイン指導などを行っています。

平成13年 石川町駅東口開発完成

J R 石川町駅中華街口開設

<これまでの取組②>

【L プラザ周辺地区のまちづくりを考える】

●吉浜町、松影町、寿町、扇町を活動範囲として、まちの環境を整備し、住み働く人々が快適な生活を送るため、また所有資産の価値を維持し高めるため、まちの環境を整備し維持する活動を行う。

ア. まちの環境美化

イ. まちのルールづくり

<これまでの取組③>

【ヨコハマ・ホステル・ヴィレッジ】

●地域の活性化を図る「YOKOHAMA HOSTEL VILLAGE」を2005年に開始した。簡易宿泊所が多くある地区特性を活かして簡易宿泊所を改装・改良し、バックパッカーなど短期滞在者を多く集客するもの。周辺の風俗店などに起因する治安の改善が課題となった。

【町内会・自治会等のまちづくり】

・住みやすさの向上をめざしたまちづくり活動の検討・推進

L：浦舟町・阪東橋周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【回遊性の創出】

- ・大通り公園～横浜公園～日本大通りの都市軸は、絶好の位置にありながら、連結性がなく、賑わいが無い。この利活用がうまくいけば、地区全体の活性化の起爆剤になると思う。
- ・大通り公園のビヤガーデンはたくさんの方が来て賑わった。恒常化してもらいたい。

【通りの賑わい】

- ・伊勢佐木町モールや大通り公園で日本大通りのようにオープンカフェを実施する。
- ・マンションの1・2階に店舗、事務所は必要。賑わいが途絶えてしまう。

【周辺地域との連携】

- ・大鷲神社、三吉演芸場といった拠点や、伊勢佐木3～7丁目地区、埋地地区といった周辺地域との連携を検討したい。

<12戦略との関連性>

6. 公共空間や歴史資産等の利活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る。

7. 文化・芸術・教育・スポーツ等の文化芸術創造活動を集積する

<アクションプラン>

（グレー着色）は、優先的取組

【多様な活性化拠点づくり】

- 市大浦舟校舎跡地の整備
 - ・南区役所、公会堂、消防署、土木事務所を市大浦舟校舎跡地に移転し、一体的に整備
 - ・近隣施設との連携強化やバス路線再編を検討し、利用者の利便性を向上

【大通り公園における植樹した桜を活かした取組】

- ・桜の植樹、桜のイメージ統一による回遊性の確保
- ・桜イベントの開催

【大鷲神社を拠点とした賑わい創出】

- ・大鷲神社の酉の市などの祭事と商店街、周辺地域との連携による賑わい創出
- ・日常時の神社、商店街の周遊強化の検討

【周辺地域との連携・情報の共有】

- ・大鷲神社、三吉演芸場、伊勢佐木3～7丁目地区、埋地地区との連携による情報発信の検討や、周遊促進の検討

【外国人との交流・連携の検討】

- ・外国人住民との共生（マナー共有、文化交流など）についての勉強会の開催
- ・地域の既存イベント（お花見、料理会など）への外国人住民参加の促進

＜これまでの取組①＞

【横浜橋通商店街】

- 平成 13 年度には防犯カメラの設置を行い、平成 17 年度には 9 台から 20 台まで増設を行い、安全・安心のまちづくりに取組む。
通りの中央に休憩用のベンチを設置し、商店街における利便性を高めるように工夫。

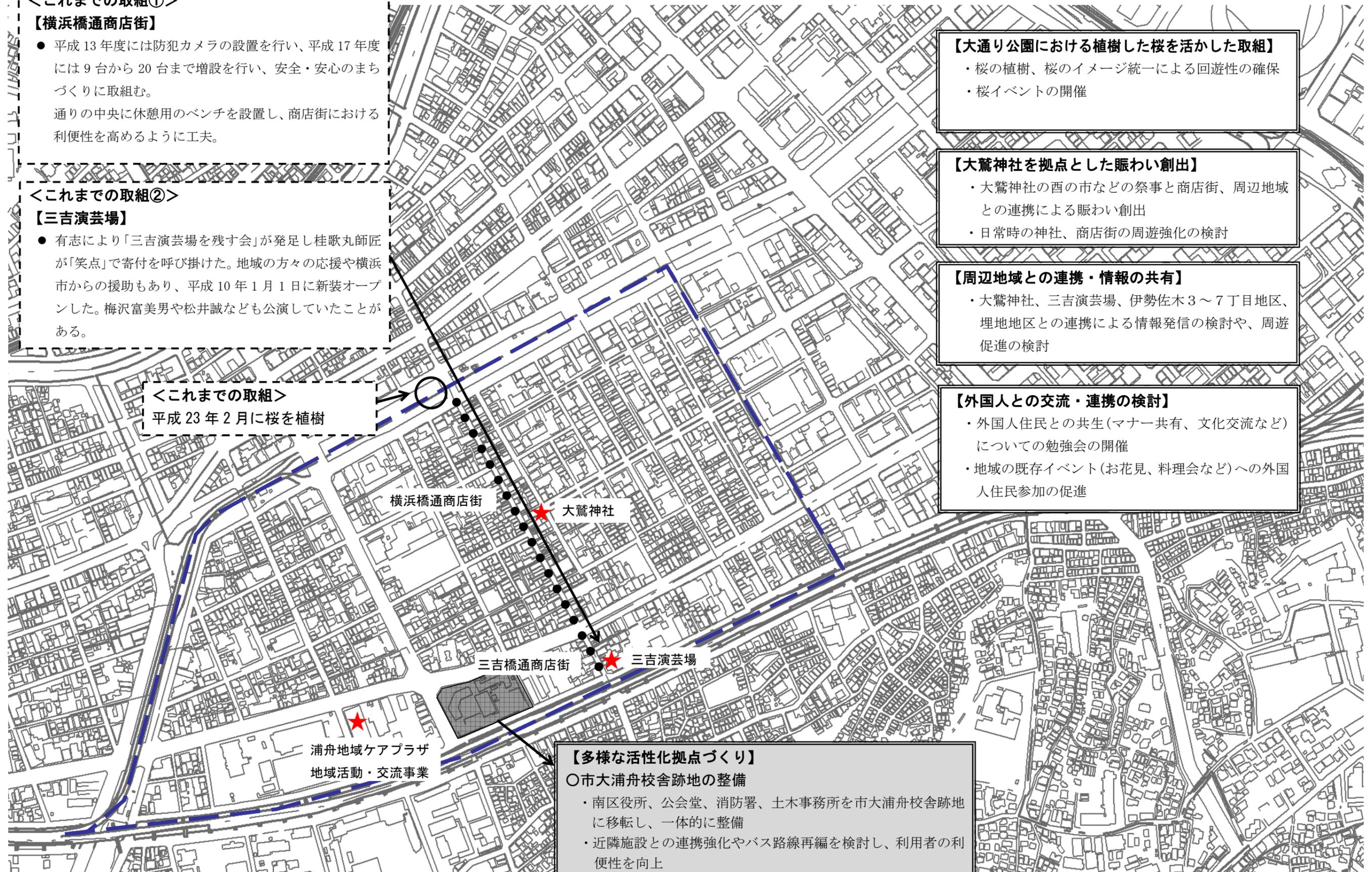
＜これまでの取組②＞

【三吉演芸場】

- 有志により「三吉演芸場を残す会」が発足し桂歌丸師匠が「笑点」で寄付を呼び掛けた。地域の方々の応援や横浜市からの援助もあり、平成 10 年 1 月 1 日に新装オープンした。梅沢富美男や松井誠なども公演していたことがある。

＜これまでの取組＞

平成 23 年 2 月に桜を植樹



【大通り公園における植樹した桜を活かした取組】

- ・桜の植樹、桜のイメージ統一による回遊性の確保
- ・桜イベントの開催

【大鷲神社を拠点とした賑わい創出】

- ・大鷲神社の酉の市などの祭事と商店街、周辺地域との連携による賑わい創出
- ・日常時の神社、商店街の周遊強化の検討

【周辺地域との連携・情報の共有】

- ・大鷲神社、三吉演芸場、伊勢佐木 3～7 丁目地区、埋地地区との連携による情報発信の検討や、周遊促進の検討

【外国人との交流・連携の検討】

- ・外国人住民との共生(マナー共有、文化交流など)についての勉強会の開催
- ・地域の既存イベント(お花見、料理会など)への外国人住民参加の促進

【多様な活性化拠点づくり】

○市大浦舟校舎跡地の整備

- ・南区役所、公会堂、消防署、土木事務所を市大浦舟校舎跡地に移転し、一体的に整備
- ・近隣施設との連携強化やバス路線再編を検討し、利用者の利便性を向上

M：お三の宮周辺地区のアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、
パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、
関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、
街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【回遊性の強化】

- ・乗船場の整備により回遊性を生み出したい。
- ・遊覧船を運航してもらえようになりたい。
- ・市で実証実験を予定しているコミュニティサイクルをお三の宮通りまで誘導したい。

【植栽による通りづくり】

- ・植栽の維持管理は現在、植込みの前の人が手入れをしているが、多くの人が関われるようにイベントのようなものにしていきたい。
- ・市民農園を身近な所でできないか。

【歴史を活かしたまちづくりの推進】

- ・まちの歴史や文化の資源を展示したい。商店街で街角美術館を開きたい。
- ・お三の宮のことがまだまだ知られていなかったなので、情報発信していく方法を検討したい。

お三の宮まちづくりプランより

1. 歴史と文化を活かしたシンボルスポットづくり

- ・宮前の雰囲気を感じられるモニュメントの設置
- ・通り名や歴史・文化を紹介するサインや掲示板の設置

2. にぎわいと景観に配慮したまち並みの実現

- ・宮前の通りにふさわしいにぎわいの演出
- ・四季を感じられる植栽の設置と管理
- ・宮前の通りにふさわしいきれいな通りの実現

3. 安心・安全でだれにもやさしい通りの実現

- ・通りの交通安全対策
- ・安心して歩ける通りの実現

4. まちづくりの周知・PR

- ・かわら版の発行・配布
- ・まちづくり活動を紹介する掲示板等の運用
- ・ホームページによる周知・PR
- ・まちの歴史などをPRするパンフレットの作成

5. まちづくりへの参加を促すイベントや活動

- ・幅広い世代が楽しく参加できるイベントによる活性化
- ・住民間・町内会・商店会とのコミュニケーション

<12戦略との関連性>

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

6. 公共空間や歴史資産等の活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

6. 公共空間や歴史資産等の活用により、開港都市横浜ならではの都市の魅力を創る

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

8. 人と環境にやさしい便利な交通・移動環境を創る

11. 安全・安心なまちづくりを進める

10. 関内・関外地区の魅力を活かし、都心観光機能を強化する

12. 各地区の地域特性に合わせたエリアマネジメントを推進する

<アクションプラン>

(グレー着色)は、優先的取組

【お三の宮通りを中心とした賑わいと安心・安全な通りづくり】

- お三の宮通りの景観形成（植樹、モニュメント、サイン）
- 植栽活動の実施（花植え活動、植樹の会、樹木の勉強会等の実施。植栽市の実施。）
- ・植栽活動に関して、継続的に続けられる管理・活動体制づくり

【まちづくりルールの策定】

- ・通りを中心とした地域のルールづくり（樹種、外構、ゴミ出し等のルール）

【多様な世代による歴史を活かしたまちづくりの推進】

- ・空き店舗などを利用した新たな事業・交流づくり。
- ・継続的なまちづくりのための組織化、情報発信
- ・多くの人々がまちづくりに参加できる仕組みづくり（情報発信、イベント等への参加、日常のコミュニケーション）
- ・吉田新田完成 350 周年（平成 29 年）に向けたイベント準備検討

【拠点性と回遊性の創出】

- ・大岡川アートプロジェクト「光のぶろむなあど」の継続実施。
- ・桜や歩道植栽などによる緑の連続性づくり
- ・大岡川プロムナード再整備計画

【安心なまちづくりの推進】

- ・交通安全対策や防犯対策（防犯灯、パトロール）の継続実施

<これまでの取組>

【お三の宮通りまちづくりプラン】

- まちの歴史と文化を知ってもらうとともに、街の抱える様々な問題、課題について組織として取り組むために、「お三の宮通りまちづくり委員会」を発足（平成 20 年 9 月）。これからのまちづくりの目標と方向性を示した『お三の宮通りまちづくりプラン』が認定されている（平成 22 年 11 月）。
- まちづくりの目標
 - ・歴史と文化を学び、後世に伝えるまちづくりを進めます。
 - ・子どもやお年寄りにやさしいまちづくりを目指します。
 - ・商と住、幅広い世代が交流する活気のあるまちづくりを目指します。

<お三の宮周辺地区での主なイベント>

【お三の宮日枝神社例大祭】

- お三の宮日枝神社での例大祭。市・縁日が開かれ、みこし・曳山・山車が出る。

【大岡川アートプロジェクト 光のぷろむなあと】

- 大岡川周辺の遊歩道や建物がキャンドルなどでライトアップされる。

【拠点性と回遊性の創出】

- ・大岡川アートプロジェクト「光のぷろむなあと」の継続実施。
- ・桜や歩道植栽などによる緑の連続性づくり
- ・大岡川プロムナード再整備計画

【安心なまちづくりの推進】

- ・交通安全対策や防犯対策（防犯灯、パトロール）の継続実施

お三の宮通りまちづくり
委員会活動区域

★ 日枝神社

【お三の宮通りを中心とした賑わいと安心・安全な通りづくり】

- お三の宮通りの景観形成（植樹、モニュメント、サイン）



- 植栽活動の実施（花植え活動、植樹の会、樹木の勉強会等の実施。植栽市の実施。）
- ・植栽活動に関して、継続的に続けられる管理・活動体制づくり

【まちづくりルールの策定】

- ・通りを中心とした地域のルールづくり（樹種、外構、ゴミ出し等のルール）

【多様な世代による歴史を活かしたまちづくりの推進】

- ・空き店舗などを利用した新たな事業・交流づくり。
- ・継続的なまちづくりのための組織化、情報発信
- ・多くの人々がまちづくりに参加できる仕組みづくり（情報発信、イベント等への参加、日常のコミュニケーション）



- ・吉田新田完成 350 周年（平成 29 年）に向けたイベント準備検討

3.複数のエリアで連携したアクションプラン

<提案された主な意見・アイデア>

関内・関外地区活性化推進計画検討会（20年10月から22年3月4回開催）、パブリック・コメント（22年1月18日～2月19日）、関内・関外地区活性化推進計画意見交換会（21年9月～22年10月9回開催）、街づくり団体との意見交換会（22年度開催）より抜粋

【地区一体となったエリアマネジメントの実施】

- ・関内まちづくり振興会では、関内ハイカラ市を馬車道まつりとあわせて、弁天通りを利用して行っている。
- ・昨年のY150については、不完全燃焼と感じている市民も多い。現在、YMC（山下公園通り会、元町SS会、中華街発展会）が仕掛け、Y151を始めた。今年6月始めに行い、70万人が来られ、一定の成功を収めたと考える。今後は、関内地区全体に取組を広めていき、Y200まで行いたい。
- ・馬車道周辺の赤煉瓦等から、昭和のにおい、大正ロマンが感じられ、横浜の大きな魅力になっている。関内全体を赤のイメージで統一してはどうか。
- ・日本大通りでは、オープンカフェを毎日2店舗オープンしている。面白い効果として、ロケに使われることが多くなった。
- ・関内・関外は非常に景観が良く、海外ロケに行けない現状を逆手にとって、フィルムコミッションを見直してみてもどうか。元町、野毛も非常に良い舞台である。
- ・来年は、黄金町バザールとトリエンナーレを連携させる。
- ・コミュニティサイクルの取組に期待をしているが、エリアを再検討し、お三の宮周辺まで広げてほしい。

【回遊性】

- ・関内には、横浜駅やみなとみらい21地区からの回遊もあり、土日にも、人が歩くようになった。都心全体の回遊路を考えると、関内地区の浮上論が出てくるのではないかと。
- ・関内・関外は回遊性が問題である。羽田空港の国際化に伴い、日ノ出町を起点に回遊性が考えられる。みなとみらい21地区よりも、リーズナブルな宿泊やお店などを作ることで、拠点になるのではないかと。

【河川空間の活用】

- ・河川の活用について県と話し合っている。桜の時期に、カヌー、屋形船など多くの船が通るが降りるところがない。乗船場を作るように提案している。乗船場の整備により回遊性を生み出したい。

<12戦略との関連性>

12. 各地区の地域特性に合わせたエリアマネジメントを推進する

1. 関内地区・関外地区・みなとみらい21地区をつなぐ結節点を強化する

2. 都市の軸、水・緑・賑わいのネットワークを創る

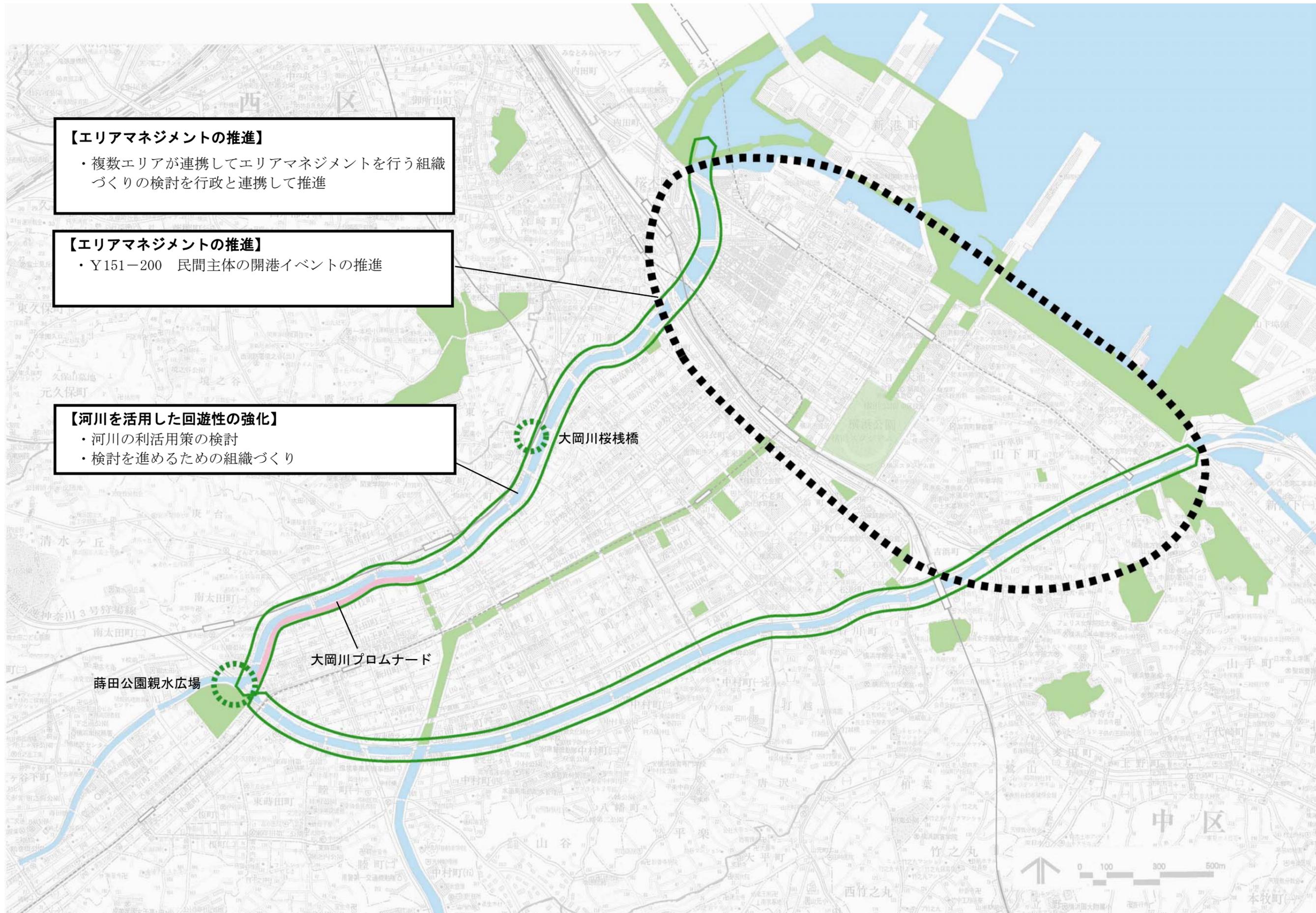
<アクションプラン>

【エリアマネジメントの推進】

- ・複数エリアが連携してエリアマネジメントを行う組織づくりの検討を行政と連携して推進
- ・Y151-200 民間主体の開港イベントの推進

【河川を活用した回遊性の強化】

- ・河川の利活用策の検討
- ・検討を進めるための組織づくり



【エリアマネジメントの推進】
・複数エリアが連携してエリアマネジメントを行う組織づくりの検討を行政と連携して推進

【エリアマネジメントの推進】
・Y151-200 民間主体の開港イベントの推進

【河川を活用した回遊性の強化】
・河川の利活用策の検討
・検討を進めるための組織づくり

大岡川桜棧橋

大岡川プロムナード

蒔田公園親水広場

